

畜産ネットワーク ちば

2011年1月13日
第20号

発行所 (社) 千葉県畜産協会
〒260-0026
千葉市中央区千葉港4番3号
千葉県畜産協会内

発行人 森 英介

年頭のご挨拶



社団法人
千葉県畜産協会

会長 森 英介

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては清々しい新年をお迎えのことと、心よりお祝い申し上げます。

皆様には日頃より、当協会の各種事業推進に当たり、ご支援、ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

昨年は、畜産情勢が極めて厳しさを増してきた中で、宮崎県で口蹄疫が発生し、予想を上回る拡大に、家畜防疫の重要さを痛感いたしました。当協会といたしましては、県と共に消毒薬の全戸配布、研修会、講習会の開催等実施し、防疫の徹底に努めた所です。大きな打撃を受けた皆様の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

一方、わが国経済状況が低迷を続けている中で、畜産物消費が伸び悩み、飼料価格も世界的な

異常気象の影響もあって、予断を許さない状況となっており、加えて、世界貿易における今後のわが国の対応、特に農畜産物の扱いに目が離せない情勢となっております。

こうした中で畜産協会といたしましては、畜産経営改善への支援指導事業、自給飼料等の活用などを推進する生産性向上事業、畜産物価格低下に対処する経営支援事業、家畜防疫等を推進する家畜衛生対策事業、畜産物のブランド化等による消費拡大事業等、畜産物の安定生産と消費者への安定供給を目指し、推進を図っておるところです。

国におきましては、新年度から、制度や事業の大幅改正も予想されますので、情報の迅速な周知や新たな制度・事業への早急な取り組み体制の確立等、協会として、でき得る限り皆様方に支障のなきよう対応してまいる所存です。

本年も引き続き国や県の事業を有効に活用し、でき得る限り皆様のお役に立つ様、努めてまいりたいと存じますので、更なるご協力をお願い申し上げます。

平成23年が、皆様方にとりまして、より実り多き年であることを心よりお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。

もくじ

- ・年頭のごあいさつ 千葉県畜産協会 会長 森 英介 … (1)
- ・千葉県畜産振興計画について … (2)
- ・千葉県農林水産業試験研究推進方針(案)の概要 … (4)
- ・第48回畜産関係試験研究成果発表会のご案内 … (6)
- ・畜産機械施設リースのご案内 … (8)
- ・『口蹄疫対策マニュアル』について … (10)
- ・『行政へ牛が教える危機管理』 … (11)
- ・高病原性鳥インフルエンザが養鶏場、野鳥で猛威 … (11)
- ・平成22年度：ナイスポークチバ活動報告会盛大に開催 … (12)
- ・平成22年度 千葉県豚共進会 … (12)
- ・第33回千葉県種豚オークション … (12)
- ・県畜産物をPR 2010年千葉県畜産フェア開催 … (13)
- ・ダート競馬の祭典「JBC」船橋競馬場で開催 … (13)
- ・ちば畜産レディースネットワーク会報 … (14)
- ・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信 … (15)
- ・畜産新規就業者確保・定着促進事業 … (16)
- ・「食の安心・安全」は「法令遵守」から … (16)
- ・編集後記 … (16)

千葉県畜産振興計画について

千葉県農林水産部畜産課 課長 山端 輝一

千葉県が、平成22年3月に策定した千葉県総合計画「輝け！ちば元気プラン」では、「農業産出額全国第2位」及び「海面漁業漁獲量全国第6位」を確保し、「地域を支える力強い農林水産業」の実現を、10年後に目指す姿として示しております。

県農林水産部では、これらを具体化し、実現化するために、平成23～25年度を計画期間とした、園芸、農産、畜産、森林・林業及び水産の各分野における5つの振興計画と、全分野にわたる担い手育成と販売促進の2つの計画からなる「千葉県農林水産業部門別計画」を策定し、平成22年12月15日から1ヶ月間の期間でこれら計画（案）に係る意見募集を行っています。

意見の提出先

(1) 電子メール: nouseisaku@mz.pref.chiba.lg.jp

(2) ファクシミリ: 043-222-3960

(3) 郵送: 〒260-8667

千葉市中央区市場町1-1

千葉県農林水産部農林水産政策課

計画(案)の閲覧: <http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/boshuu/bumon-pc.html>

【畜産振興計画（案）の概要】 取組の基本方向と主な取組について

1 生産性向上・経営安定のための生産基盤の強化

おいしい牛乳や肉の生産能力が高い家畜を増やし、生産コスト削減や生産基盤を強化します。

◆乳牛の改良促進

酪農家への指導強化とともに、生産能力の高い乳牛を受精卵移植等で増頭します。

◆和牛繁殖基盤の強化

優秀な繁殖和牛を受精卵移植等で増頭するとともに、和牛繁殖の担い手を確保します。

◆養豚経営の安定化

養豚経営安定対策事業により養豚経営の安定化を図ります。

2 自給飼料の生産拡大による飼料自給率の向上

輸入飼料の高騰や耕作放棄地の有効活用の観点から、自給飼料の増産による飼料自給率の向上を目指します。

◆飼料自給率の向上のための総合対策

飼料生産の組織づくりと機械整備、耕作放棄地の有効利用と飼料用米の活用で飼料増産を図ります。

3 県産畜産物の魅力発信

県産食肉の知名度を上げて、流通及び消費者の需要を喚起します。

◆県産食肉の魅力発信

県産豚肉でのチバザポークの取組を進展させるとともに、県産牛肉等の知名度向上に向けたキャッチコピーやロゴマークを活用したPRを実施します。

4 家畜排せつ物の適正管理と有効利用

家畜排せつ物法に準拠した適正管理・処理を推進するとともに、たい肥の利用拡大と流通促進を図ります。

◆家畜排せつ物の循環利用の推進

堆肥の調整・施用機械・施設の整備を推進します。

5 家畜衛生対策の強化

口蹄疫などの家畜伝染病の発生防止対策と、万一発生した場合の迅速な防疫対策の一層の強化を図ります。

◆口蹄疫などの急性悪性伝染病危機管理体制の強化

発生時の迅速な防疫措置に対応するため、消石灰等の防疫資材備蓄、実践的な防疫演習の実施など、危機管理体制の一層の強化を図ります。

千葉県畜産の位置

(平成21年生産農業所得統計、平成20年牛乳乳製品統計、平成20年鶏卵流通統計、平成21年食鳥流通統計、平成20年畜産物流通統計)

(H21)	農業計	畜産計	酪農			肉用牛		養豚		採卵鶏		肉用鶏	
	(H21) 億円	(H21) 億円	生乳生産量 (H20) t	産出額(乳用牛) (H21) 億円	産出額(生乳) (H21) 億円	出荷頭数 (H20) 頭	産出額 (H21) 億円	出荷頭数 (H20) 頭	産出額 (H21) 億円	出荷量 (H20) t	産出額 (H21) 億円	出荷量 (H21) 千羽	産出額 (H21) 億円
千葉県	4,066	1,033	270,874	273	254	29,073	48	1,025,358	335	185,268	309	8,429	37
全国順位	第3位	第6位	第3位	第4位	第3位	第15位	第29位	第5位	第4位	第1位	第2位	第16位	第15位
全国1位	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県	千葉県	茨城県	宮崎県	鹿児島県
	10,111	5,229	3,905,285	3,725	3,183	255,907	794	1,840,244	655	185,268	331	118,964	505
全国2位	茨城県	鹿児島県	栃木県	栃木県	栃木県	鹿児島県	北海道	宮崎県	宮崎県	茨城県	千葉県	鹿児島県	宮崎県
	4,170	2,320	326,008	342	311	101,993	577	1,413,317	470	184,354	309	113,879	499
全国3位	千葉県	宮崎県	千葉県	群馬県	千葉県	宮崎県	宮崎県	茨城県	茨城県	鹿児島県	鹿児島県	岩手県	岩手県
	4,066	1,726	270,874	283	254	84,014	512	1,155,633	388	151,405	246	100,548	490
全国4位	鹿児島県	岩手県	群馬県	千葉県	群馬県	熊本県	熊本県	群馬県	千葉県	愛知県	岡山県	青森県	青森県
	4,005	1,271	269,477	273	254	68,584	294	1,095,866	335	135,742	209	38,729	180
全国5位	宮崎県	茨城県	熊本県	熊本県	熊本県	栃木県	長崎県	千葉県	北海道	広島県	愛知県	北海道	北海道
	3,073	1,098	248,822	263	240	55,497	193	1,025,358	298	117,030	193	31,161	124
全国6位	熊本県	千葉県	岩手県	岩手県	岩手県	群馬県	岩手県	北海道	群馬県	岡山県	北海道	熊本県	徳島県
	3,004	1,033	233,871	234	216	43,258	192	943,523	297	115,989	189	21,420	94
全国7位	愛知県	熊本県	愛知県	愛知県	愛知県	愛知県	宮城県	青森県	青森県	北海道	広島県	徳島県	佐賀県
	2,976	907	226,143	229	215	38,564	191	724,699	239	105,709	180	15,406	74
全国8位	青森県	群馬県	茨城県	茨城県	茨城県	岩手県	栃木県	岩手県	栃木県	新潟県	新潟県	佐賀県	兵庫県
	2,664	895	177,500	176	164	36,421	185	719,320	210	92,183	164	15,230	63
全国9位	栃木県	栃木県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	佐賀県	愛知県	岩手県	青森県	青森県	鳥取県	鳥取県／大分県
	2,589	858	145,975	146	137	33,014	156	644,896	202	85,799	155	12,879	56
全国10位	新潟県	青森県	長野県	兵庫県	兵庫県	福島県	茨城県	栃木県	愛知県	宮城県	宮城県	兵庫県	
	2,588	778	125,426	132	120	32,792	150	604,772	184	81,528	152	12,587	

※生産量は肉用鶏のみH21値、その他はH20値

10月1日から 新 無利子の農業改良資金は日本公庫が融資します。

【農業改良資金の概要】

お借り入れの条件

金利：無利子

償還期限：10年以内(うち据置期間3年以内)

※一部12年以内(5年以内)の特例があります。

限度額：個人1,800万円 法人5,000万円

※下記のご利用いただける方のうち①③の方は、必要額の8割に相当する額と上記の額のいずれか低い額です。

ご利用いただける方

- ①主業農業者
- ②認定農業者
- ③認定就農者 など

必要な手続き

都道府県の農業改良措置の認定を受ける必要があります。

(公庫による融資審査の手続きもあります)

資金の使いみち

- ①新たな農業部門の経営を始める
 - ②新たな加工事業を始める
 - ③新たな生産方式を導入する
 - ④新たな販売方式を導入する
- 場合の設備資金等にご利用いただけます。

お問い合わせは
日本公庫各支店へ千葉支店：〒260-0013
TEL 043-227-4435千葉市中央区4-13-19
FAX 043-227-4438

千葉県農林水産業試験研究推進方針(案)の概要

千葉県畜産総合研究センター

1 策定のねらい・・・・・・基本的な考え方と5つの基本目標

千葉県は温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、大消費地である首都圏に位置するという有利な立地条件、さらには農林水産業者の高い技術と意欲に支えられ、全国屈指の農林水産県として発展してきました。

しかし、低価格な輸入農林水産物の増加や生産資材価格の不安定さなどから、県内生産者の経営も厳しさを増しており、担い手の減少や高齢化、都市化の進展などにより生産基盤の弱体化が進行しています。

このため、本県農林水産業の自給力の強化や収益性の高い農業技術の開発、環境と調和した資源循環型農業の確立などが求められています。

本試験研究推進方針は、上記のような現状認識のもと、千葉県農林水産業のこれまでの成果や施策の方向性を踏まえ、平成23年度から27年度までの5か年間に、戦略的かつ効率的に試験研究を進めていくための基本的な方針を示したものであり、次の5つを基本目標として定めました。

- ①生産力を強化し農林水産物を安定供給する研究
- ②環境に調和した農林水産業を推進する研究
- ③農林水産資源の維持増大と多面的機能を保全する研究
- ④革新的技術を活用し多様なニーズに対応したブランド化を推進する研究
- ⑤多様な担い手を支援し経営を強化する研究



これらの目標実現に向かって、行政、普及はもちろん、生産者のみなさまとも連携しながら進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2 何をやるか・・・・・・畜産分野における今後推進すべき重点課題

では畜産分野において、具体的にどんな研究をやるのか、それぞれの基本目標ごとに重点的なとりくみについてご紹介します。

①生産力を強化し農林水産物を安定供給する研究

飼料自給力向上や飼養管理技術・繁殖技術や環境衛生技術のさらなる向上により、生産力強化と畜産物の安定供給に資する技術開発に取り組みます。

- 飼料イネや飼料用米と未利用飼料資源の効果的給与法の開発
- 自給飼料の効果的増給による乳用育成牛管理技術の開発
- 自給飼料活用型TMRの調製貯蔵技術と乳牛への給与技術の確立
- 腸内細菌叢解析技術を応用した豚の生産性向上技術の開発
- 鶏外部寄生虫の防除技術の確立
- 牛受精卵移植における受胎率に及ぼす要因解明による受胎率向上技術の確立
- 省力的飼料作物栽培技術の確立



②環境に調和した農林水産業を推進する研究

経営の大規模化と都市化混住化の進展にともなう環境変化に調和した畜産を支える技術開発をめざすとともに、リンなどの希少資源を含む家畜排せつ物の有効利用、さらにはエネルギー利用等新たな活用技術の確立を目指します。また、有機性資源のリサイクル技術開発にも引き続き取り組みます。

- 効率的な畜産臭気低減化技術の確立
- 畜産排水の低コスト脱色技術およびリン回収技術の開発
- 食品残さ等未利用飼料資源の有効利用技術の確立
- 家畜排せつ物の燃料利用技術の開発



③農林水産資源の維持増大と多面的機能を保全する研究

中山間地域における遊休農地等の土地資源を活用した牛の放牧管理技術の開発と、同時に獣害防止のための放牧利用技術の開発にも取り組みます。

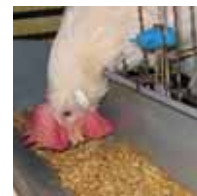
- 和牛繁殖雌牛放牧管理技術の確立
- 耕作放棄地の簡易草地造成技術の開発
- 家畜の放牧ゾーニングによるイノシシの農作物被害軽減化技術の確立



④革新的技術を活用し多様なニーズに対応したブランド化を推進する研究

飼料用米など県産飼料資源を活用した畜産物の高品質化や遺伝子解析技術を応用した畜産物の差別化、さらには今後重要となるアニマルウェルフェアの視点を取り入れた生産性向上技術の開発にも取り組みます。

- 各家畜への飼料用米の高度利用技術の確立
- 遺伝子解析技術を応用した豚肉高品質化技術の開発
- 豚の親子判定技術を応用した繁殖改善技術の開発
- 家畜のストレス軽減化による生産性向上技術の確立



⑤多様な担い手を支援し経営を強化する研究

経営の多角化、付加価値化をめざし、加工販売を取り入れた6次産業化をめざす経営条件の解明や経営者の高齢化などから、管理作業の外部委託化も模索されており、これらの経営的評価と効率的な導入方法の解明に取り組みます。

- 酪農における6次産業化条件の解明
- 自給飼料活用型TMR給与技術の導入定着条件の解明
- 放牧導入経営の経営的評価
- 種豚能力評価の効果的利用法の確立



3 どのように取り組むか・・・研究推進体制等

限られた人員・予算で効率的に試験研究を推進するため以下の対策を強化します。

- ①研究の企画管理体制の強化と研究資金確保など研究環境の充実を図ります。
- ②研究の効率化のために普及、行政および産学官との連携、研究交流を推進します。
- ③研究成果のフォローアップを推進することで生産現場への迅速な定着を目指します。
- ④研究開発能力の高い人材の確保と計画的な研修の活用で研究資質の向上を図ります。

以上のような戦略と方針のもと、生産者のみなさまに役立つ研究を推進してまいります。

瞳は未来を見つめてる。



動物 未来 みつめる ひろがる



動物用医薬品 製造販売
日本全薬工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1
URL : www.zenaoq.jp

第48回畜産関係試験研究成果発表会のご案内

千葉県農林水産技術会議畜産部会では、試験研究の成果発表会を開催し、広く関係者の皆様に成果の内容をお知らせするとともに、皆様からの提言を今後の研究成果に反映させたいと考えています。

参加は無料で、事前の申し込みも必要ありません。開催日時、場所、課題名等は下記の通りです。

お問い合わせの上、多数のご来場をお待ち申し上げます。(畜産総合研究センター)

< 酪農・肉牛部門 >

日 時：平成23年2月25日(金) 10時30分～14時35分

場 所：さんぶの森文化ホール(さんぶの森公園内)

山武市埴谷1904-5(TEL:0475-80-9700)



□トウモロコシサイレージを粗飼料源とする高脂肪飼料の給与が泌乳前期牛の乳生産に及ぼす影響(畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 笠井史子)

油実(大豆・綿実)とトウモロコシを配合した脂肪含量8%の飼料を泌乳前期牛に給与した。乳生産性等には影響はなく、生乳中の共役リノール酸が増加した。

□細断型ロールペーラで調製したトウモロコシサイレージの生産費と作業時間(畜産総合研究センター 企画環境部 企画経営室 西山厚志)

細断型ロールペーラを用いたトウモロコシサイレージ調製の延べ作業時間は、地下型サイロ体系に比べて長くなるが、疲労度を加味した作業の質調整を行うとほぼ同じになる。

□生米ヌカを用いた乳酸菌培養液の調製法と飼料イネサイレージへの添加効果(畜産総合研究センター 企画環境部 環境飼料研究室 細谷 肇)

飼料イネサイレージの良質発酵促進のため、自作可能・調製工程が簡易・低コストな添加剤として、生米ヌカと糖類を材料とするFJLB(付着乳酸菌事前発酵液)技術を紹介する。

□県内で生産された飼料イネサイレージの発酵品質調査(畜産総合研究センター 企画環境部 環境飼料研究室 名取美貴)

県内の20、21年産飼料イネサイレージの発酵品質を分析し、データを集計した。生育期、品種、添加剤、収穫機種別にまとめ、県内産サイレージ品質の傾向について報告する。

□初産乳生産に影響を及ぼす育成管理条件(畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 川嶋賢二)

初産分娩月齢早期化のために乳用育成牛の発育を高める場合、受胎までの日増体量が1.0kgを超えると初産乳量が低下する。また、受胎時体重は大きいほど乳量は増加する。

□一地域で連続して発生した牛サルモネラ症の清浄化事例(南部家畜保健衛生所 衛生指導課 高崎 舞)

発生及び周辺農家へ消石灰配布等、清浄化に向けた指導を実施した。また、酪農家等を対象に講習会を開催した。結果、防疫意識の向上、地域的な取組みにより清浄化を達成した。

□牛の放牧によるイノシシの農作物被害軽減効果の検討(畜産総合研究センター 嶺岡乳牛研究所 久保田 尚)

牛の放牧によるイノシシの農作物被害軽減効果について試験圃場において調査し、県内畜産農家の事例と併せて、放牧による効果について検討した。

□家畜ふん堆肥の低コストで簡易な造粒技術の検討(畜産総合研究センター 企画環境部 環境飼料研究室 長谷川輝明)

既存の飼料攪拌機を用いて、牛ふん堆肥の造粒化を図った。その結果、堆肥に水と市販のバインダーを添加し攪拌することで、さまざまな粒度の粒状堆肥が生産できた。

< 養豚部門 >

日 時：平成23年2月23日(水) 10時～13時30分

場 所：印旛合同庁舎大会議室

佐倉市鎭木仲田町8-1(TEL:043-483-1128)

※駐車場に限りがありますので、電車を利用するかお車の場合は乗り合わせての来場をお願いします。

□飼料用米(玄米)の配合割合の違いが肥育豚の発育および肉質に及ぼす影響(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 高橋圭二)

本県の飼料用米推奨品種である「べこあおば」の玄米を粉碎し、豚の肥育後期の飼料に0%、15%、35%、70%配合し、発育および肉質、脂質に及ぼす影響を調査した。



□肥育全期間の市販エコフィード給与が肥育豚の発育および肉質に及ぼす影響

(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 赤木友香)

豚の肥育前期～後期を通して、市販のエコフィードを給与し、発育、肉質、脂質などについて調査した結果、配合割合は10～10%が妥当と考えられた。

□ランドレース種の系統造成試験 (第1世代)

(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 高橋圭二)

H20年度よりボウソウル3の後継豚として、繁殖性、産肉性が高く、肢蹄の強健な種豚の改良に着手した。今年度は第1世代豚の生産を行いその成績について報告する。



□米国系と国産系ランドレース種の発育および肉質成績 (畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 新垣裕子)

米国系と国産系の豚の発育及び肉質成績の比較を行った。格落要因は全体では厚脂が約半数を占め、その約7割が国産系であった。薄脂の豚はその全ての個体が米国系であった。

□管内における豚丹毒の発生事例 (東部家畜保健衛生所 防疫課 関根大介)

管内3養豚場で肥育後期に突然死が多発した。検査により豚丹毒菌を検出し敗血症型の豚丹毒と診断した。菌は農場に常在化しており、発生はワクチン未接種だった。

□免疫学的去勢剤を接種したブタの発育と肉質に及ぼす影響 (畜産総合研究センター 生産技術部 生物工芸研究室 沼尾真人)

免疫学的去勢剤を接種したブタは、接種後の異常反応や雄兆候を示さず、外科的去勢群と比較しても発育や肉質に差は見られなかった。 ※ 引き続き同会場にて千葉県畜産協会主催の養豚大会が行われます。

< 養鶏部門 >

日 時：平成23年2月15日(火) 10時～14時

場 所：成田国際文化会館小ホール

成田市土屋303 (TEL: 0476-23-1331)

□飼料用米の採卵鶏への利用 (畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 脇 雅之)

飼料中のトウモロコシを「ちば28号」、「べこあおば」の玄米あるいは粳で50%代替した飼料を採卵鶏群に11カ月に渡り給与した結果、産卵成績は良好な成績を示した。

□飼料用米とDDGSの給与が産卵鶏に及ぼす影響

(畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 斉藤健一)

適切な飼料配合設計により飼料中のトウモロコシの50～100%を飼料用米に置き換え、同時にDDGSを10～15%配合しても、産卵成績に大きな影響は無く、良好な成績を得た。

□飼料用米の品種比較給与試験 (畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 脇 雅之)

4品種の粳で飼料中のトウモロコシの50%を代替した飼料を採卵鶏群に給与した結果、産卵成績は良好な成績を示した。糞中の乾物含量は粳を給与しても増加しなかった。

□3種類のエコフィードの産卵鶏飼料への利用 (畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 斉藤健一)

市販化されている3種類のエコフィードをそれぞれ15%飼料原料と配合し、産卵鶏に給与した結果、産卵成績、卵質成績などに大きな影響はみられず利用は可能であった。

□簡易資材脱臭装置による鶏ふん堆肥化時発生臭気の脱臭 (畜産総合研究センター 企画環境部 環境飼料研究室 杉本清美)

養鶏経営で開放直線攪拌型堆肥発酵ハウスから発生する臭気を、炭・ヤシガラ・モミガラ・梨剪定枝チップを堆積した資材吸着式脱臭装置で脱臭する試験を行ったところ、アンモニアは7割程度除去できた。

□千葉県における伝染性喉頭気管炎発生事例について (中央家畜保健衛生所 病理生化学課 関口真樹)

伝染性喉頭気管炎生ワクチン接種鶏は、ストレス等でウイルスを排泄する。接種鶏と未接種鶏が同居すると、水平感染が起こる可能性がある。千葉県での事例を紹介する。

□誘導換羽用飼料による換羽誘導後の卵重の制御 (畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 脇 雅之)

2銘柄の赤玉卵産出鶏を誘導換羽用飼料により換羽に導いたのち、低タンパク質飼料を給与した結果、銘柄により卵重の抑制効果は異なった。

□採卵鶏主要銘柄経済性能比較調査 (畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 丸山朝子)

シェーパーブラウン、ボリスブラウン、ゴトウもみじ、ジュリア、ハイラインマリア、パブコックB-400VS、ジュリアライト、デカルブホワイトの8銘柄を飼養し、産卵諸性能、卵質などについて調査した。



お問い合わせ先

千葉県畜産総合研究センター <http://www.pref.chiba.lg.jp/laboratory/livestock/>
電話：043-445-4511 FAX：043-445-5447

酪農、肉牛、養鶏、養豚、
ふれあい牧場などの事業を
行っている皆様へ

畜産機械施設リースのご案内

平成22年4月から、より使いやすくするために次のような改正をしました。より多くの皆様のご利用をお待ちしています。

リース期間の延長(短縮)ができます

利用者の要望によって、機械施設の法定耐用年数の60%から120%の範囲(4年から9年)で延長(短縮)できます。9年に延長した場合のリース料などを6年貸付の場合と比べてください。

中古機械もリースします

草地造成や自給飼料生産用の機械施設で一定の基準を満たすものは、中古機械もリースの対象となります。

ふれあい牧場もリースの対象になります

ふれあい牧場などの事業者は、機械(アイスクリーム、チーズ製造機など)や施設(動物のゲージ、ベンチ、牧柵など)をリース対象として利用できます。本件の貸付利子は、リース残高の1.0%とします。

リースの特徴・仕組

経営資金が有効に使えます

機械施設の導入時に多額の購入資金を必要としませんので大切な資金を有効に活かすことができます。
また、貸付利子はリース残高の1.0%(年)で、有利です。

導入する機械施設、 購入業者が選べます

リース物件は、農家が自由に選定でき、購入価格も業者と交渉して決めていただきます。

リース物件は、リース終了後は 自分のものになります

リース期間が終わったら、購入価格の100分の10の額に消費税相当額を加えた額でリースを受けた方に譲渡されます。

リース期間中は、偶発的事故の 損害が補償されます

リース機械施設は割安な掛金で損害保険(動産総合保険)に一括加入されるので、リース期間中の火災・落雷・盗難等偶発的な事故による損害が補償されます。

農家には農業協同組合を通じて リースされます

リース物件は、農家を選んだ業者から当協会が購入し、農業協同組合にリースします。農家はこの農業協同組合から再リースされます。

特認貸付けもできます

リース可能な機械施設は別表のとおりですが、これ以外でも農林水産省生産局長の承認を受けてリースすることができます。詳しくは当協会へご相談下さい。

リース料の支払い例

例 (リース期間9年)リース機械価格100万円(消費税抜)、貸付開始4月1日の場合

(単位:円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	譲渡価格	合計
リース料	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000
消費税	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	50,000
利子	9,750	8,750	7,750	6,750	5,750	4,750	3,750	2,750	1,750	—	51,750
保険料	13,680	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13,680
年間支払合計額	128,430	113,750	112,750	111,750	110,750	109,750	108,750	107,750	106,750	105,000	1,115,430

例 (リース期間6年)リース機械価格100万円(消費税抜)、貸付開始4月1日の場合

(単位:円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	譲渡価格	合計
リース料	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	100,000	1,000,000
消費税	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	5,000	50,000
利子	9,625	8,125	6,625	5,125	3,625	2,125	—	35,250
保険料	9,260	—	—	—	—	—	—	9,260
年間支払合計額	176,385	165,625	164,125	162,625	161,125	159,625	105,000	1,094,510

注1:年間支払い合計額は、毎年、3月末と9月末の2回に分けて支払っていただきます。

注2:保険料は、この機械が自給飼料用・据付固定型の機械の場合で、機械の種類等によって若干異なります。

支払いの時期は第1回目のリース料の支払いと同時です。

注3:このほか、このリースを扱う農協等の事務手数料がかかる場合があります。

注4:中古機械のリース料についても上表に準じて適用されます。また、損害保険の対象にもなります。

主なリース機械と期間

貸付機械施設名	主要なリース機械	リース期間
自給飼料生産 利用機械施設	●トラクター ●ラッピングマシン ●ホイールローダー ●ロータリー ●ロールカッター ●コーンハーベスター ●バキュームカー ●ロールベアラー ●自動給餌機 ●モアコンディショナー ●ペールディストリビューター ●ヘイベイラー ●フロントローダー ●テッダー類 ●コーンプランター ●カッター ●飼料攪拌機 ●ワゴン類 ●フォレージハーベスター ●マニアスプレッダー ●ディスクモア等モア類 ●レーキ類 ●播種機 ●FRPサイロ	6年
	●ダンプカー	5年
搾乳施設	●パイプラインミルク ●ミルキングパーラー ●搾乳ロボット ●搾乳ユニット自動搬送装置	6年
生乳冷却貯蔵施設	●バルククーラー ●プレートクーラー	6年
生乳検査機械	●生乳成分測定器	6年
精液保管等施設	●凍結精液保管器 ●精液輸送車(特殊自動車の場合は5年) ●液体窒素保管器 ●補給器	6年
畜舎環境改善 機械施設	●消毒機 ●消毒用自動車(特殊自動車の場合は5年) ●細霧装置 ●節電装置 ●哺育器 ●通風装置	6年
中小家畜管理機械施設	●自動給餌器 ●豚分娩ゲージ ●鶏舎用カーテン巻上げ機	6年
特認機械施設	●検査分析機器 ●孵卵器 ●アイスクリーム製造機(従前の貸付例)	

※リース期間は、要望により、上表の6年のものは4年から9年、同5年のものは2年から4年にすることができます。

この表は、リースしている機械の一部です。この表以外にもリースできる機械はたくさんあります。

詳しいお問い合わせは・・・

(社)千葉県畜産協会、お近くの農業協同組合又は(財)畜産近代化リース協会までご連絡下さい。

(財)畜産近代化リース協会

TEL:03-3584-0899

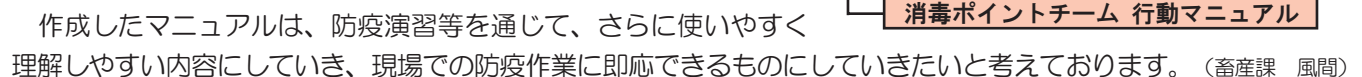
FAX:03-3584-0758

(社)千葉県畜産協会 経営支援課

担当:武田

TEL:043-242-6333

FAX:043-238-1255



『行政へ牛が教える危機管理』 口蹄疫被災家畜慰霊碑除幕式・慰霊祭開催される



※慰霊碑 宮崎県産：尾鈴石（高さ4m・幅1.4m・厚さ90cm・重さ16t）

宮崎県において発生した口蹄疫は、約29万頭の牛・豚をさっ処分する犠牲を強い、生産者に未曾有の大惨事をもたらしましたが国・県、生産者、関係者の防疫に対する献身的な努力により終息いたしました。

全国の畜産関係者が、口蹄疫を初期の段階で防圧できず、生命を途中で絶たれた家畜を慰霊すると共に、今回の惨事を反省し、教訓として後世に伝える目的で慰霊碑が福島県西郷村所在の（独）家畜改良センターに建立され、11月29日その慰霊碑除幕式が開催されNPC協議会も参加しました。

慰霊碑の建立は、（社）日本養豚協会、全国肉牛事業協同組合、みやざき養豚生産者協議会、宮崎県口蹄疫被害者協議会が中心となり、慰霊碑除幕式には、衆議院議員山田正彦前農林水産大臣、江藤 拓衆議院議員、他関係議員、農林水産省から、生産局佐藤一雄畜産部長、他関係局・部担当課長、関連中央団体、関係県及び関係団体、生産者組織代表、関連産業代表、牛・豚生産者200名が列席し除幕式・慰霊祭が厳かに催されました。 一合掌一 （生産振興部 加藤）

高病原性鳥インフルエンザウイルスが養鶏場、野鳥で猛威

養鶏場の飼養管理に一層の注意を！

平成22年10月、北海道稚内市においてわが国で初めて野生カモの糞から高病原性鳥インフルエンザウイルスが分離されて以来、12月2日の島根県養鶏場での本病の発生や富山県や鳥取県、鹿児島県の野鳥等から本病ウイルスが分離されています。又、韓国やアジア、ヨーロッパ等世界各国で依然と猛威をふるっており、高病原性鳥インフルエンザが国内の「どこで」「いつ」発生してもおかしくない状況にあります。

本病の発生予防は、野鳥やウイルスに汚染されている可能性のある全ての人・動物・物を対象として、養鶏場へのウイルスの侵入防止を徹底することが最も重要な対策です。下記の事項を参考に今一度、徹底した確認をお願いします。

国内での高病原性鳥インフルエンザ発生及び野鳥等からウイルス分離状況

地域名	確認年月	タイプ	家禽・野鳥等
北海道	22.10	H5N1	野鳥（カモ）の糞
島根県	22.11	H5N1	採卵鶏
富山県	22.12	H5N1	コブハクチョウ
鳥取県	22.12	H5N1	コハクチョウ
鹿児島県	22.12	H5N1	ナベヅル等

なお、当協会では平成23年2月15日（火）午後2時から、成田市の成田国際文化会館に於いて鶏病研究会千葉県支部と共催で「高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するために」をテーマに、養鶏農家や関係者を対象に研修会の開催を計画しています。

講師は本病の研究に長年取り組んでこれ、本病に精通されております鳥取大学伊藤壽啓教授を予定しております。

本病防疫の原点を考える機会として、是非ともご参加くださいますようお願いいたします。（衛生環境部 黒田）

ウイルスの侵入防止対策

1 人・車両等による侵入防止に努めましょう

- ①農場出入口での対策：農場への人・車両の入場制限、入場車両・物品の消毒
- ②鶏舎出入口での対策：鶏舎専用の衣服等の更衣、消毒槽の設置、器材等洗浄消毒

2 野鳥・野生動物による侵入防止を徹底しましょう

- 防鳥ネット・金網の設置、ねずみの侵入防止、農場周囲への消石灰散布、鶏舎の扉の開閉

3 飲み水、飼料による侵入防止に努めましょう

- 飲用水・飼料の汚染防止

4 鶏舎内外の整理・整頓・清掃に努めましょう

5 鶏の健康管理及び取扱いに注意しましょう

- 導入鶏の健康の確認、死亡鶏の原因究明及び羽数の確認・処理

6 鶏糞の処理に努めましょう 十分な発酵処理

7 防鳥ネットの整備・補修に努めましょう

わたしたち森久保薬品は
人と動物の「これから」を真剣に考えています。

 **森久保薬品株式会社**
<http://www.morikubo.co.jp>



平成22年度：ナイスポークチバ活動報告会盛大に開催

特別講演「笑いは健康の良薬」・選手参加で千葉ロッテ日本一を祝う・消費者との交流会・TPP対応への決議etc・・・盛り沢山

平成22年度活動報告会は、12月7日千葉市内京成ホテルミラマーレにおいて、国会・県議会議員、中央団体、県及び関係団体、生産者及び賛助会員総勢220名が参加し盛大に開催されました。

今回の特別講演は、落語家三遊亭春楽師匠を迎え、笑いは健康に、又仕事をすするうえでのモチベーションを高める効果が大きいと講演され最後は「ときそば」を披露し会場は大爆笑・・・

報告会では、来賓から挨拶を頂いた後、岩岡副会長から映像により1年間の活動報告をいたしました。今回5年ぶりの日本一となった千葉ロッテマリーンズ：渡辺（俊）、大松の両選手を迎え、野球好きの生産者を交えたトークショー、選手の色紙抽選会など会場は大いに盛り上がりしました。

また、消費者であるサポーター会員と関係者（20名）との県産豚肉に対する意見交換会を開催し、昨年からの実施の県産銘柄豚（林SPF豚・元気豚）による「しゃぶしゃぶ」とダイヤモンドポークの「ももハム」コーナーは大変好評を頂き、県産豚肉を大きくアピールいたしました。

今回、突発的なTPP（環太平洋経済連携協定）問題に対する政府の動きに対し、生産者組織としてスローガンを掲げました。平野会長からTPPの説明と高森副会長から決議文を発表し、参加検討することについて反対の決議を採択いたしました。

＊開場に掲げられたスローガン

未来のため・地域のため、我が国の産業「農」を守れ!!

農業崩壊のTPP断固反対・国産豚肉が無くなってもいいのか

少なくとも食料自給率の向上を踏まえた十分な議論が待たれます。

今回、例年になく盛り沢山の内容となりましたが、終始和やかな中でも、年明け早々の飼料の値上げと、農業、地域産業の崩壊が危惧されるTPP問題等目の離せない状況を確認する報告会となりました。（生産振興部 加藤）



平成22年度 千葉県豚共進会

肉豚の部第2類において多古町内山利之氏が農林水産大臣賞を受賞！
種豚の部では、香取市の小川渉氏が名誉賞を受賞いたしました。

平成22年度千葉県豚共進会（肉豚の部）は10月19日（火）～21日（木）旭市の千葉県食肉公社を会場として、また、（種豚の部）は10月26日（火）～27日（水）八街市のJA全農ちば八街家畜市場においてそれぞれ開催されました。

肉豚の部は1類78組156頭、2類20組160頭の出品があり、第1類

（2頭1組）の名誉賞は、旭市川口の渡辺栄樹氏の出品豚に、また第2類（8頭1組）の名誉賞は多古町間倉の内山利之氏の出品豚が受賞されました。

第2類の名誉賞に輝いた内山氏の出品豚は、全頭上物で形質良好、肉質・脂肪の質もよく総合的にすばらしい枝肉であったことから農林水産大臣賞を見事受賞されました。

種豚の部では38頭〔28頭と5組〕が出品され、I部4類牡齢雄の部に出品した香取市岩部の小川渉氏のデュロック種が名誉賞に輝き、優等賞1席に同じく牡齢雄の部に出品した成田市吉岡の新井



肉豚の部第2類 多古町 内山利之氏



種豚の部名誉賞 牡齢雄 香取市 小川渉氏
敬治氏のデュロックが受賞となりました。（生産振興部 金杉）

第33回 千葉県種豚オークション

最高価格は富里市堀江光洋氏出品のD雄金賞受賞豚が103,000円で販売

第33回千葉県種豚オークションが、10月27日（金）JA全農ちば八街家畜市場において開催されました。

出品頭数は、純粋種24頭、F31頭の出品があり、購買者は18人集まり販売成立80%となりました。

（生産振興部 金杉）



最高価格を付けた富里市堀江光洋氏の出品豚

次回オークション開催日
平成23年2月9日（水）

県畜産物をPR 2010年千葉県畜産フェア開催

平成22年10月2日(土) 船橋競馬場ふれあい広場において第4回千葉県畜産フェアが、千葉県の後援、今年度船橋市の後援、関係団体、出展団体等の協力、又、多数のご協賛を頂き盛大に開催されました。

特に広報では船橋市の配慮で近隣小学校の生徒に抽選券付パンフレットを配布しました。

当日は天候に恵まれ、朝から大勢の県民が訪れ、食べ物コーナーでは県産銘柄牛・豚肉の焼肉に長い行列ができてとても美味しいと好評でした。

ちば畜産レディースネットワークによる牛乳を活用したミルクくずもちも好評でした。

国内、県内の畜産をどれだけ知っているか、知ってもらうための畜産ウルトラクイズを2回実施し、600人の参加者にヨーグルトが配布され、上位5名の入賞者に県産銘柄牛肉、豚肉が、又各出展団体より豪華な賞品が贈られました。

昨年まで親子連れの参加者でにぎわった搾乳体験コーナーは国内で口蹄疫の発生があり中止したため参加者から体験したかったとの声がありました。次年度体験できるよう検討したいと思います。

これからも県内の畜産物を生産者とともに積極的に宣伝し、消費者との交流の場として考えておりますので今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。(企画経営部 大崎)



ダート競馬の祭典「JBC」船橋競馬場で開催

平成22年11月3日(祝) 船橋競馬場に於いて地方競馬最大のダート(砂)競馬第10回JBCクラシックとJBCスプリント競争が晴天のもとに大勢の来場者(3万人)があり行われました。

地方競馬の振興と千葉県畜産物のPR、消費拡大と併せて畜産ファンの獲得のため競馬ファン8,200人に千葉県産豚肉のウィンナー・県産の厚焼き玉子を無料配布し、また、パンフレット等により千葉県畜産物のPRを行いました。(企画経営部 大崎)



次代へつなぐ子供達の為にも安全な精肉を
CHEF MEAT CHIGUSA Co.,Ltd
株式会社シェフミートチグサ

〒262-0012 千葉県千葉市花見川区千種町210-5
TEL: 043-259-3705 URL: www.chefmeat.co.jp/



ちば畜産レディースネットワーク会報 通算第3号

モ〜モ〜フ〜フ〜コケコッコ〜



千葉県内の畜産に携わる女性のみなさんの会報です。前号からネットワークちばの誌面で発行しています。

活動記録

1 千葉県畜産フェア出展：平成22年10月2日（土）

午前11時～午後3時

船橋競馬場 10名参加

- ・昨年大好評の「ミルクくず餅」を調理・提供
450個を販売、活動資金潤う(^)



2 情報交換会：平成22年11月24日（水）午前11時～午後3時

千葉県庁18階 BSE会議室 12名参加

- ・調理体験教室への取組、講演会等への参加等について協議
- ・千葉県庁農林水産部畜産課女性職員（3名）の業務紹介後、情報交換



3 千葉県農山漁村女性団体ネットワークリーダー会議（9月13日・11月12日）県庁16階会議室

- ・柴会長及び大松副会長が参加

4 全国畜産縦断いきいきネットワーク大会

平成22年12月7日（火）午後3時～ 東京・中野サンプラザ

- ・柴会長、大松副会長、関口副会長、須藤副会長参加。レディースの活動等紹介



5 畜産加工調理体験教室

平成22年12月12日（日）午前10時～午後2時

富里市 印旛地域農林業センター

- ・16組（34名）の親子が豚肉と牛乳を用いた4つのレシピを調理し味わった



- ・柴会長はじめ7名の会員が調理指導やレディースの活動、千葉の畜産を紹介

活動予定

1 畜産加工調理体験教室

平成23年1月22日（土）午前10時～午後2時、横芝光町文化会館にて開催予定

牛肉を素材としたレシピを調理予定

2 千葉県農山漁村女性団体ネットワークいきいきフォーラム

平成23年2月1日（火）午後1時～午後4時

パネラーとして、南房総市 池田牧場 池田美香会員が発表予定

レディース会員10名以上の参加を予定、皆様のご参加、よろしくお願いいたします。（事務局 新城）

会員だより

「安心・旨い卵をお届けします!!」 旭市 大松優子(養鶏)

12月7日、東京にて全国畜産縦断いきいきネットワーク大会が行われ、千葉からは4名参加し、宮崎県の口蹄疫の体験者より心からの叫びを伺い、また、処分された29万頭の牛・豚に改めて安らかにと祈りました。

鶏は扁桃腺がないためにあっという間に伝染してしまうので、毎日鶏の声を聞き、緊張して作業に当たっております。

鶏の使命が全うされるためにも、日本風土に合う国産鶏をひよこより食べ物を吟味して、太陽の光、自然の風で丈夫な鶏に育てております。11月には奇跡のリンゴの木村秋則さんの講演をようやく聴くことができ、1滴でも農薬はいけませんと伺い、間違った農業はしていないと確信し、同じ考えを持つ方がいることに勇気づけられました。

また、自然循環農法に賛同する若者達が高知県より旭市に引っ越しをして、必死の覚悟で12月22日より菓子製造部門を立ち上げてくれていますし、これから益々、自然循環養鶏に邁進していきます。



NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信

今回は、平成22年度の新規事業・その他について、9月以降の近況等をご紹介します。

1. 畜産経営支援組織連係強化事業の近況等

①生産獣医医療技術の向上と普及を目的とした中央畜産会主催の家畜衛生技術研修会に当NPO会員1名が参加しました。(9月3日：東京)

②畜産支援組織における職員指導力の向上を図るため、実務者会議において各組織の研修希望等を再確認し、今後の取り組み方を協議しました。(9月8日、11月26日)

③千葉県畜産協会主催の千葉県畜産フェアに当NPO会員3名が参加し、「畜産なんでも相談」を担当しました(10月2日)。また、11月には10名が参加しました。(11月3日)

④今年度2回目の畜産研修会を開催したところ、約50名のご参加をいただき、誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。当研修会の一つ、財団法人国際教育協会による「新外国人技能実習制度」においては、昨年7月から制度が変更されたことや受け入れに際しての注意点、実習生の国民性の違い、社会保険の必要性等を知ることができたものと思いますので、今後の参考にしていいただければ幸いです。

一方、NPO法人エコグループ市原と当NPO等の共同研究による「河川堤防刈草の発酵TMR利用による牛生産コストの削減効果」においては、現地調査の状況や刈草の有効利用の意義等を理解していただけたものと思います。(11月26日)

⑤都合で延期となっている先進地視察研修(TMRとコントラクタ関係)は、県草地協会と共催で2月4日に実施の予定です。この研修により、当県におけるTMRの活用とコントラクタ組織の充実を図るための参考になればと期待しております。



2. 生産コスト低減畜産生産技術開発推進事業の近況

国土交通省が管理する手賀川及び利根川堤防の刈草を家畜の飼料として活用するため、社団法人畜産技術協会の標記事業で取り組んでいる「河川堤防刈草の発酵TMR飼料の開発による牛生産コストの削減効果」は、現地において今年度の植生や作業効率に関する調査を終え、現在、TMR製造や飼料成分分析と給与試験を実施中です。

11月9日、さいたま市浦和にて畜産技術協会主催のシンポジウム(河川堤防刈草の有効活用・・・堤防の刈草を家畜の飼料に・・・)において、NPO法人エコグループ市原と当NPOの両理事長がそれぞれ担当した内容について講演しました。

3. 『千葉県酪農のさと』指定管理者への応募について

8月6日、千葉県のHPにおいて平成23年度からの上記施設(平成7年11月・日本酪農発祥の地に開園)に係わる指定管理者の募集が公表されました。

同施設は、日本の酪農に関する歴史について学ぶ機会を提供し、県民の酪農等畜産に対する親しみと理解を深め、畜産の振興と地域の活性化を図る等の大きな目的を持って建設されたものです。

いつの日にか、当NPOも同施設の運営に参加して県民に貢献したいと以前から話し合っておりましたので、10月1日、書類を整えて応募し、12日の審査会において説明をいたしました。その結果は残念ながら管理者として採択されるに至らず、当NPOの夢は夢に終わることとなりました。

当NPOの会員が大勢参加して各種展示やイベント等を企画することで、「酪農のさと」本来の目的を達成させながら、地域の振興も図ろうと考えましたが、『NPO』というものに関する評価の厳しさも感じた次第です。(事務局 高梨)

◎入会申込みや畜産に関する ご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは・・・

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局
((社)千葉県畜産協会内)
TEL:043-242-6333
FAX:043-238-1255

正会員 58(内、団体8)
賛助会員 2(団体)

畜産新規就業者確保・定着促進事業

本年度から中央畜産会委託事業として、「畜産新規就業者確保・定着促進事業」に取組みます。

この事業は、国の政策課題にある雇用の確保について、畜産は他農業分野に比べて法人化が進み雇用の受け皿として期待されていますが、畜産業への就業希望者が少なく、また、離職者率が高い状況にあることから、畜産分野への就業の促進を図るため、畜産業における雇用状況を把握するとともに、農業就業相談会等における畜産業に関する情報提供、畜産就業者の確保及び定着に係る支援活動を実施し、もって畜産経営の安定化に資することを目的としております。（企画経営部 榛葉）

（事業推進フロー）



地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています。

「食の安全・安心」のための第1歩は、
「法令遵守」であることを改めて認識してください。

－ 編集後記 －

重苦しい思いの中での新年を迎えることとなりました。平成23年のこれからの行く末を考えると、とても「明けましておめでとうございます」とお祝い気分になってもおれない心境です。

平成22年は、4月にわが国における10年ぶりとなる口蹄疫の発生、約29万頭の牛・豚等が無念のうちに処分され、畜産農家始め関係者は悲嘆にくれました。11月には高病原性鳥インフルエンザも発生、これまでに経験したことのない1年間に2大感染症が発生するというダブルパンチとなりました。

関係者の必死の努力もあって、1県のみでの発生に封じ込めることができたことに対し改めて敬意と哀悼の意を表します。

しかしながら、物・人など交流の深いお隣韓国においては、この2大感染症が同時多発的に発生し、拡大の一途を辿っており悲惨な事態に陥っております。わが国においても、「いつ、なん時」飛び火するか予断を許さない正に危機的状況にあります。

そのような中で、降って湧いたような突然のTPP（環太平洋経済連携協定）参加問題。参加することになれば、畜産業界ばかりでなく関連産業が壊滅的打撃を受けることが明確なあまりにも大きな爆弾です。

平成23年は、「貿易」と「防疫」に、より一層関係者一丸となって真剣に備えなければならない大事な年になると思う今日この頃です。（事務局長 新城）

総務部	TEL 043-242-5417(代)	FAX 043-238-1255	info@chiba.lin.gr.jp
企画経営部	TEL 043-242-6333	FAX 043-238-1255	takeda@swan.ocn.ne.jp
酪農肉牛課	TEL 043-242-8299	FAX 043-238-1255	miyagami@swan.ocn.ne.jp
養豚課	TEL 043-241-3851	FAX 043-241-3853	kato@np-chiba.jp
衛生環境部	TEL 043-241-1738	FAX 043-241-3853	chieishi@aoros.ocn.ne.jp